

塚 口

平成23年度

No 2

学校教育目標
集団の中で自らを律し
目標の実現に向け努力し
自らを高め続けようとする姿勢の育成

「尼崎」から「あたたかい心」を届けよう！

十数年前、阪神大震災がおこり、復興のための支援を日本全国のたくさんの方から頂きました。

あの時の皆様のあたたかい気持ちが私たちの町の復興につながったのです。

「今こそ、あの時のあたたかい気持ちをお返しするときだ。」という声が、子どもたちからあがりました。

何かできることはないか？震災に遭われた同じ中学生・高校生が、一日でも早く生活が安定し、学校に通うことができ、そして、私たちと同じ吹奏楽部の生徒が笑顔で曲を演奏できるように祈りをこめて活動を行いたいと思います。

< 活動計画より抜粋 >

ご協力をお願いします

高等学校、小学校の協力を得て、そして、生徒会、吹奏楽部、PTAが一緒になって東日本震災復興チャリティーコンサートを計画しています。

保護者の皆様、地域の皆様もご理解ご協力を、よろしくお願いします。

当日は、県立尼崎北高等学校、県立尼崎稲園高等学校、塚口中学校の3校吹奏楽部によるミニコンサートと生徒会・PTAによる募金活動を行います。

東 日 本 震 災 復 興 チャリティーコンサート

日時：平成23年5月7日(土) pm1:00～3:00

場所：つかしん カワガ-テン

GUNZE TOWN CENTER TSUKASHIN

内容： 3校吹奏楽部によるミニコンサート

生徒会・PTAによる募金活動

参加：兵庫県立尼崎北高等学校・兵庫県立尼崎稲園高等学校
尼崎市立塚口小学校PTA・尼崎市立尼崎北小学校PTA
尼崎市立塚口中学校



プ ロ グ ラ ム (予定)

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 1:00 尼崎市立塚口中学校吹奏楽部 | |
| 1:40 兵庫県立尼崎北高等学校吹奏楽部 | 舞台転換中 |
| 2:20 兵庫県立尼崎稲園高等学校吹奏楽部 | 生徒会による呼びかけ |
| 2:50 フィナーレ 3校合同演奏「上を向いて歩こう」 | |

雨天中止

気持ちのいいあいさつ

平成23年度がスタートして、約2週間が過ぎました。1年生は、塚中の生活にも少しは慣れた頃でしょうか。

「おはようございます」、朝、校門付近にいますと、気持ちのいいあいさつがかえってきます。「1年生のあいさつがいいな」というのが、この2週間の私の感想です。

廊下であっても「こんにちは」と、いい顔であいさつをしてくれます。気持ちのいいあいさつは、今年の1年生のセールスポイントにしていこうと思っています。

高等学校の先生、地域の方等、たくさんの方が学校を訪れます。そんな人たちから「あいさつがしっかりとできるね」とほめてもらえたら本物だと思います。いいことは、どんどん積み上げて行きましょう！

人との交流は、まず、あいさつからです。

うれしい一言

ちょっと、小雨の降る朝、道に立ち登校の様子を見ていると、「先生、傘、使いますか？」と、自分がさしている傘をさしだしながら、声をかけてくれる人がいました。

「ありがとう、だいじょうぶやから。気持ちもらっとくな。」と、断りましたが、塚中にも、こんなやさしい子がいるのだと思い、その日一日、本当にいい気分でご過ごすことができました。ありがとう。

少し気になること

それは、登下校のみなさんの様子です。特に、朝は同じような時間帯に、たくさんの方が登校してきます。

道一杯にひろがり、他の人や車・自転車の通行の妨げになっています。また、大変危険です。

一人一人が、ちょっと意識することで、すぐに、改めていけることだと思います。

2年生・3年生は昨年度の修了式の日、安井先生から、注意を受けたことですね。もちろん下校時にも十分気をつけて下さい。

今年の塚中生の意気込みを、地域の人にも見てもらいましょう！

平成23年4月20日読売新聞
編集手帳より

浪曲師の二代目広沢虎造は東京・浅草の自宅で関東大震災に遭った。家事を手伝う少女を連れて避難したが、食べるものがない。ある町で握り飯の炊き出しをしていた「子供が腹をすかせています。一つ、いただけませんか」「町内の方じゃありませんか。よその方には差し上げられません」「子供の分だけでいいんです」「お断りいたします」虎造は死ぬまでその町の寄席には出演しなかったと、吉川潮さんの虎造一代記『江戸っ子だっけね』（NHK出版）にある。つらいときに受けた仕打ちは胸に深く刻まれて残る 本紙『気流』欄（東京版）で、気持ちのふさぐ投稿を読んだ。福島県から他県に出かけた人の車（会津ナンバー）に駐車場で誰かが「帰れ、来るな」と落書きをしたという。人への風評被害が広がりつつあるらしい 被爆の危険を顧みず、原発事故の処理にあたる人たちがいる。小さな手に握りしめたお小遣いの10円玉を、爪先立ちして募金箱に入れる幼児がいる。皆が、“心の握り飯”を被災者に持ち寄ろうとしているときである。顔が赤くならないかい、落書きの君よ。

危険ですね！



写真は、平成22年度撮影のもの

雨天中止

しちらいましょつ！

■ 与具は、平成22年度撮影のもの